ご自由にお持ちください

日本赤十字社 Japanese Red Cross Society 秦野赤十字病院

ぴーなっつうしん

Vol.10
2019.5

秦野市の特産品「ピーナッツ」の花言葉は、「仲良し・楽しみ」。生活に役立つ情報や当院の魅力などを提供し、地域のみなさんと病院とのコミュニケーションツールになる広報誌を目指します。

[PICK UP]

腹腔鏡手術における高い技術「外科」

特集 知っておきたい医療の知識

想いを支える心強いサポーター“ソーシャルワーカー”

*EVENT REPORT「私たちは、忘れない。」プロジェクト

知っておきたい医療の知識

医療社会事業課のメンバーを紹介します

前職からこの地域で仕事をはじめて早10数年になりました。患者さんご家族の生活を支えるだけでなく、この医療相談室が気軽に声を掛けて頂ける場所になるよう、これからも院内外の関係機関の皆様、地域の皆様と共に歩んでいけたらと思います。よろしくお願いいたします。

荒井 医療社会事業係長(MSW) 担当:外来

当院に入職して3年目になります。以前は療養型病院と併設の老健にて勤務してまいりました。これまでの経験を活かしながら退院後も安心して地域での生活を再開できるようそのお手伝いをさせて頂ければと考えております。ご心配やお困りごと等がありましたら遠慮なくお声をかけて頂ければと思います。どうぞよろしくお願いいたします 。

西山 医療社会事業課(MSW) 担当:5東・5西

今年で勤続20年目を迎えました。外来や救急を担当しておりましたので「この顔に見覚えあり」という方もいらっしゃるかと思います。在宅医療が必要な患者様の退院など、看護の視点で皆様の支援が出来るよう院内や地域を繋ぎながらサポート出来ればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

阿部 医療社会事業課長(看護師)

以前は福岡の急性期病院に勤務していましたがこちらでの職歴のほうが気付けば長くなりました。地域の特性を感じつつ、山・海に恵まれた豊かな環境はふるさとに似たところもあり過ごしやすく感じます。患者さん、ご家族が安心して入院中を過ごし退院できる準備のお手伝いができたらと思っています。

小林 医療社会事業課(MSW) 担当:6西・HCU

当院が現在地に移転する前年に入職いたしました。

院内だけでなく院外の医療や介護の関係機関、行政とも連携をして地域の皆様が安心して生活できるようお力になりたいです。お困りごとがございましたらご相談ください。

割田 医療社会事業課主任(MSW) 担当:4東・6東

退院後の生活が安心して送れるよう、関係機関の方と連携を取らせて頂きながら院内のスタッフの一員として、お手伝いが出来ればと思っております。レスパイト入院のご相談も受けておりますので、介護休暇を希望される方がいらっしゃいましたらぜひご紹介をお願いいたします。

高橋 医療社会事業課主任(MSW) 担当:4西

秦野地域の訪問看護に従事し20年、定年後の昨年6月より当院に勤務しております。知識と経験を活かし、退院前の自宅訪問を通じて適切なサービスとの橋渡しや患者様ご家族の安全安心な在宅生活をサポートしていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

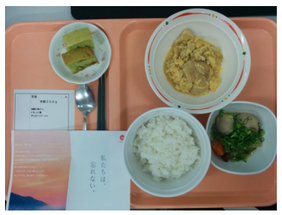
加賀田 退院調整看護師

EVENT REPORT

「私たちは、忘れない。」

日本赤十字社では、過去の災害の教訓を忘れず、今なお被災地で苦しんでいる人々に思いを寄せると共に、災害で得た教訓や経験を活かした、「防災・減災」を目的とした「私たちは、忘れない」プロジェクトを毎年3月に実施しています。

当院では毎年プロジェクト実施期間に合わせ、株式会社LEOCとタイアップ企画を実施しています。今年で3回目となるタイアップ企画では、7Fのレストランの食事メニューや入院食として東北の郷土料理を提供しました。



入院食には、今回のプロジェクトのコンセプトでもある『備える』をテーマに様々な備えについて記載されたメッセージカードを添えました。東北にちなんだ食材を使って、油麩の卵とじ・いもっこ煮・ずんだパウンドケーキが提供され、入院患者さんの中には、“懐かしい味がしました”、“メッセージカードを見て、入院していても家にいるかのように震災のことを思い出し、今後も震災のことを忘れないように備えたいと思いました”などの感想をいただきました。

また7階レストランCuore（クオーレ）では、3月11日（月）～15日（金）までの5日間、東北郷土料理フェアと題し日替わりメニューの提供を行いました。5日間の中でも鮭を煮た煮汁で炊いたご飯に鮭といくらを載せた「はらこ飯」は大好評につき即完売となりました。連日、多くの方々に足をお運びいただき“当時の災害から多くの年月が経ったことへの驚きと共に、防災・減災に対して意識を高める良い機会になった”などお声もいただきました。今プロジェクトを通し、過去の災害を教訓に今後の防災・減災への意識を持っていただくよい機会になったのではないでしょうか。

― 腹腔鏡手術の技術

消化器疾患に対する手術では、「からだに優しい」と称される腹腔鏡手術を積極的に取り入れ、術後早期回復に努めています。

腹腔鏡手術は技術難易度が高いため、腹腔鏡手術に習熟した日本内視鏡外科学会技術認定が中心となり行います。当院は、技術認定医が2名在籍（大佛部長、片山医長）しており、内視鏡手術の安全性が担保されています。

5月からは、新たに腹腔鏡専門外来を開設し、毎週火・水曜日の午後に診察を行います。“患者さんが抱えている疾患が腹腔鏡手術の適応なのか”、“腹腔鏡での手術を希望したいけど、実際どんな手術なの？”、秦野赤十字病院で手術を受けられるか“、“腹腔鏡手術によるメリット・デメリットは？”など腹腔鏡手術に関するご相談、疑問・質問にお応えし、患者さん一人ひとりに合った治療計画を立てていきます。まずは、お電話でご相談、もしくは現在かかられている先生へご相談いただき紹介状をお持ちの上ご来院ください。

― 術後の対応

わたしたちの使命は、外科医として責任を持って地域の患者さんの治療を行うことです。

当科では、独自に当直またはオンコール（緊急時の対応）体制を構築しており、当科で手術を受けられた患者さんは、突然の体調不良などにも24時間365日緊急対応をいたします。

今月号の

秦野日赤人

第一外科部長

おさらぎ　ともひこ
大佛　智彦

2019年4月より第一外科部長として秦野赤十字病院に赴任。

〈資格〉
日本外科学会専門医・指導医
日本消化器外科学会専門医
日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
日本内視鏡外科学会技術認定医（消化器・胃）
日本がん治療認定医機構がん治療認定医

＝秦野赤十字病院の外科医。わたしたちのモットーは「患者さんおよびご家族の方々に“笑顔”で退院して頂くこと」です

―「地域完結型医療」での役割

当院がある秦野市は、65歳以上の人口割合が約30%と高く、高齢化地域と言えます。当院を受診する患者さんの多くは秦野市の方で、高齢の患者さんが多いのが実状です。高齢患者さんの多くが、1つの病気ではなく様々な病気を抱えており、1つの臓器だけでなく他の診療科と連携した全身を見るチーム医療を行うことで、より安全で確実な外科診療を提供しています。

また、神奈川県西部の基幹病院として、近隣の診療所（かかりつけ医）や医療機関と連携を密にし、ひとりの患者さんを当院とかかりつけ医がチームとなって診る地域完結型医療の中心的役割を担います。

― 次世代を担う医師の育成

少子高齢化が進む現在、地域の医療を支え、適切な医療を提供するために次世代を担う医師の育成は欠かせません。当院でも横浜市立大学外科治療学の関連病院として、次世代を担う外科医の育成に力を入れています。質の高い外科診療と外科教育を実践していきます。

Q. 日本内視鏡外科学会技術認定医制度とは？

A. 各学会の専門医制度とは異なり、内視鏡手術における技術の評価と指導医としての技量を認定する制度です。実際の手術動画を学会に提出し、各領域のエキスパートの審査員（2～3名）により手術動画もとに審査され、基準を満たした者のみが認定されます。手術技術を客観的に評価する画期的な制度で、消化器外科を専門とする外科医でも胃癌・大腸癌の分野においては、およそ20%前半の合格率となっています。

※技術認定取得者は日本内視鏡外科学会ホームページ掲載されています。

地域との連携、他科との協力、Ｎｏとは言わない診療科を目指します

知っておきたい
医療の知識

「ソーシャルワーカー」って何だろう？

病気の治療後の不安や退院後の生活といった心理的･社会的な問題、生活困窮などの経済的な問題など、病院には、誰に話したらよいか分からない困りごとの相談援助のスペシャリストがいます。聞いたことがあるけれど、なかなか知らない「ソーシャルワーカー」についてご紹介します。

身体の治療だけではないその先の支援、想いを支える心強いサポーター

知っていますか？病院で困ったときに相談できる人がいることを。病気は予期せず降りかかってきます。そんな中、“入院が決まったけど費用が心配”、“病気になる前のように自由に動けない”、“退院後もリハビリを続けたい”など、多くの悩みや不安がのしかかってきます。自分だけではどうしていいのかわからない。そんなときに、相談に乗り支えてくれる心強いソーシャルワーカーが秦野赤十字病院には5名います。

ソーシャルワーカーに相談できること

「医療や介護の制度を知りたい」「在宅サービスや転院先がわからない」「医療費が払えるか心配･･･」ソーシャルワーカーはそんな声にお応えしています。

各種制度について、患者さんにとって何がベストなのか、ご提案しながら申請方法や制度の仕組みについてお伝えします。また、専門的なリハビリや療養を継続する病院、介護施設など患者さんに合った情報をご案内します。

住み慣れた場所で

ご自宅へ退院される患者さんには、退院後の生活イメージを持ってもらうため、自宅の玄関や階段、お風呂などの危険な場所をチェックし、改修を検討する退院前の自宅訪問を行っています。ご自宅への調整は、主に退院調整看護師を中心として、主治医･看護師などの院内スタッフと共に、かかりつけ医、訪問看護師やケアマネジャーなど地域の方々とカンファレンスを行い、切れ目のない医療･介護の体制が整うよう努めています。

秦野赤十字病院のソーシャルワーカー

関わりは入院前から。入院が決まった患者さんについて、かかりつけ医やケアマネジャー、施設職員などとやり取りを行い、患者さんがスムーズに入院生活が送れるよう情報共有をしています。入院された患者さんには、病棟ごとに担当のソーシャルワーカーがいます。相談はできる限り同じソーシャルワーカーが行い顔なじみの関係になることで、今までの経過を踏まえた継続的な関わりが可能となっています。もちろん、入院患者さんだけでなく、救急や外来通院の患者さんにも対応しています。

入院から退院、さらには、その先まで。生活のあらゆる場面で、医療や介護について困っていることがあれば、電話でも窓口でも病室でも、ソーシャルワーカーにご相談ください。多くの人と一緒に考え、共に解決策を探します。

わたしたちは、ここにいます

秦野赤十字病院のソーシャルワーカーの所属する医療社会にはソーシャルワーカーの他に退院支援を担う看護師います。看護師ならではの視点で患者さんに寄り添い、自宅に帰れるよう支援します。同じ空間で多職種が協同し、患者さんをサポートする医療社会事業課は、正面玄関を入って右手一番奥、会計窓口の横にあります。（左図赤枠）ぜひ、お気軽にお立ち寄りください。

裏面へ続く→